

都市農地の保全等の検討について

1 検討の概要

西東京市都市計画審議会(以下「審議会」という。)では、生産緑地を削除する都市計画変更の議題を審議するたびに、この減少に歯止めをかけられないかという議論がされてきた。このため、平成30年度から、特定の事項を調査・検討するための学識経験者で構成する専門部会を設置し、専門部会での検討、審議会での議論を経て、令和元年7月22日に「都市農地の保全と価値創造に関する提言」として市長に対して建議があり、これを受け、同年11月に、副市長を座長とする分野横断的な庁内プロジェクトチーム※(以下「庁内PT」という。)を設置し、検討を進めてきた。

※ 庁内PT構成：副市長、企画部長、企画政策課長、財政課長、生活文化スポーツ部長、産業振興課長、みどり環境部長、みどり公園課長、まちづくり部長、都市計画課長、農業委員会事務局長

2 これまでの検討経過

令和元・2年度

R元年7月「都市農地の保全と価値創造に関する提言」の建議（審議会→市長）

R元年11月庁内プロジェクトチームの設置

…

庁内における課題、現状の整理

…

専門部会より検討方法についての意見

〈意見概要〉庁内検討に留まらず、農に関わる活動を行っている団体や農業者等の利害関係者を巻き込んだ検討が必要

令和3年度

R3年10月11日農地保全・価値創造ワークショップを開催



農業者等のご意見を伺うために開催
〈いただいた主な意見〉
① 市の計画等に農地・みどりを住宅地に残せるような施策・方向性の位置づけが必要
② 農業者のみでは活動の幅が限られるため、主体同士が連携できるような仕組み(プラットフォーム)が必要

令和4年度

R4年5月「検討報告書」を提出（市長→審議会）



検討経過を踏まえ、建議への回答として市長から審議会に対して提出
〈報告書の中で示した取り組みの方向性〉
① 市の関連計画の改定に併せて農地保全に向けた記述について検討する
② 「農のプラットフォーム」の立ち上げ及び在り方について検討を行う

R5年2月農について考える勉強会

プラットフォーム立ち上げに向け、機運醸成を図るために開催し、参加者にご賛同いただき「農のプラットフォーム」を立ち上げ

3 農のプラットフォームについて

審議会の会長・専門部会の部会長である東京大学の村山准教授の協力のもと、令和3年度のワークショップ参加者などを中心として発足した。
村山准教授が運営するメーリングリストを母体としてネットワークが形成されており、市からは、都市計画課、産業振興課がメンバーとして参加している。
参加者同士で随時情報交換、活動への協力の依頼などが行われている。



〈図 プラットフォームのイメージ〉

〈プラットフォームを通じた主な活動実績〉

（参加者同士の連携による活動）

- 参加している大学(村山准教授)より、メンバーに対して研究の協力依頼が行われ、市内の農地と気候・環境に関する研究が実施された。
- 参加者が主催する勉強会・シンポジウムの開催案内が行われた(市も参加)。

（市からの働きかけ）

- お散歩ルートに面した生産緑地の活用方法について、メンバーに対し投げかけを行い、意見を伺った。
→農地を地域に開放しつつ、周辺の住民の憩いの場として活用できるような仕組みを検討中
現在、北町五丁目地内で所有者の同意を得たうえで、試行的に実施中。

4 今後の取組について

今後は、プラットフォームを通し、東京都や大学、民間事業者等との連携を図りながら、市の農業施策を進めていく。